東広島市教育委員会文化財調査報告書　第 58 集

友松５号遺跡発掘調査報告書

－（仮）寺家住宅団地造成工事に係る発掘調査－

２０１８

東広島市教育委員会

友松５号遺跡発掘調査報告書

－（仮）寺家住宅団地造成工事に係る発掘調査－

２０１８

東広島市教育委員会

はしがき

東広島市は、長い歴史と伝統、恵まれた自然環境を背景にしながら、計画的なまちづくりを進めてきました。高速交通網の充実とともに、大学を中心とした学術研究機関の集積や既存産業の活性化はもとより、幅広い分野の産業が集積し、全国でもその成長が注目される都市となっています。

そして今、社会経済情勢が大きく変化する新しい時代において、「未来にはばたく国際学術研究都市～ ともに育み、人が輝くまち～ 」の将来都市像のもと、「日本一住みよいまち」の実現に向けて全力を傾注しています。

今回発掘調査が実施された西条町寺家地区は、西条盆地のほぼ中心部に位置し古くから穀倉地帯として栄え、弥生時代の拠点的集落など多くの遺跡が存在します。

一方、平成 29 年に山陽本線寺家駅が新設され、平成 30 年 4 月に小学校が新設されたことで、宅地開発と商業施設など企業の立地が進み、開発が著しい地区でもあります。

本報告書は、住宅団地造成に伴って実施した発掘調査の成果を記録したものです。地域の歴史を解明する一助となり、埋蔵文化財の保護に対する理解を深めていただくための資料として広く活用されることを願っております。

なお、発掘調査及び報告書作成にあたり、御指導、御協力をいただきました関係各機関、研究者の皆様及び地元の方々に対し、深く感謝いたします。

平成 30 年 8 月

東広島市教育委員会

教育長　津　森　　毅

例　言

1 本書は、東広島市教育委員会（以下「市教委」という。）が発掘調査を実施した、(仮) 寺家住宅団地造成工事に係る友松5号遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査並びに整理･報告書作成作業は、株式会社トータテ都市開発から委託を受けて、平成28～30（2016～2018）年度に市教委が実施した。

3 発掘調査は、市教委の主査石垣敏之、埋蔵文化財調査員吉田由弥・日浦裕子・盛菜つみが担当し、市教委職員が協力した。

4 整理・報告書作成作業は石垣と吉田・盛が担当し、市教委職員が協力した。

5 遺構の実測・写真撮影は、石垣が行った。

6 遺物の実測は、盛が行った。写真撮影は石垣・盛が行った。

7 測量用基準杭の打設は、株式会社丸一設計が実施した。

8 本書の内容は調査関係者で検討し、石垣が執筆した。編集は石垣と盛が行った。

9 遺物実測図と写真図版の番号は同一である。

10 第1図は国土交通省国土地理院発行の1：25,000地形図『安芸西条』を使用した。第2図は東広島市発行の1：25,000東広島市地形図（N-6）を使用した。

11 本書で使用した方位は、世界測地系座標北（国土座標第Ⅲ系）である。

12 本書で使用した遺構の表示記号は、次のとおりである。

ＳＢ：掘立柱建物跡、SD：溝状遺構、ＳＫ：土坑、ＳＸ：性格不明遺構、Ｐ：ピット

13 第5～7図中の○数字は、遺物番号を表す。

14 調査で得られた資料については、すべて東広島市教育委員会が保管している。

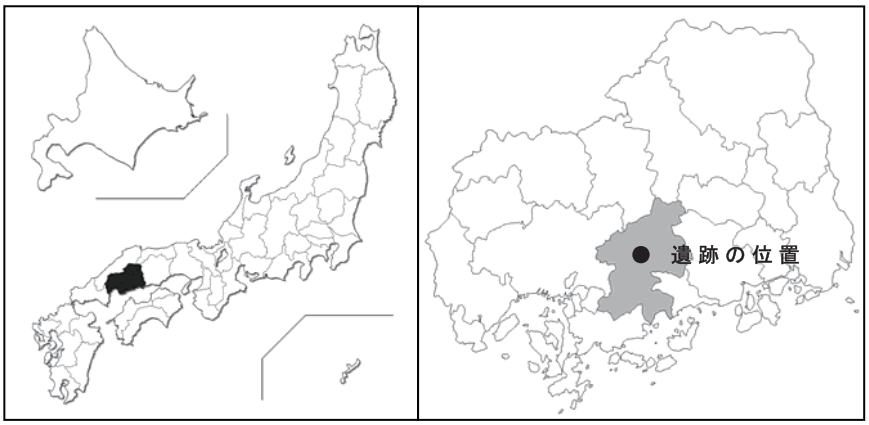
調査体制

平成２８～30年度
東広島市教育委員会
教育長：津森 毅
生涯学習部長：天神山勝浩（～平成２９年３月３１日)、下宮 茂（平成２９年４月１日～）、
　　國廣政和（平成３０年４月１日～）
文化課長：福光直美（～平成２９年３月３１日）
生涯学習部次長兼文化課長：岡田誠有（平成２９年４月１日～）
参事兼出土文化財管理センター所長兼調査係長：妹尾周三
調査　調査係主査：石垣敏之、埋蔵文化財調査員：吉田由弥・日浦裕子、盛菜つみ
事務　調査係主査：萩原真史（～平成２９年３月３１日)、松仁 猛（平成２９年４月１日～）
　　事務職員：片山由紀子

友松５号遺跡発掘調査報告書

目次

Ⅰ　はじめに …… 1
Ⅱ　遺跡の位置と環境…… 2
Ⅲ　調査の概要 …… 4
Ⅳ　遺構と遺物 …… 6
　遺構
　遺物
　遺物観察表
Ⅴ　まとめ …… 17
抄録・奥付



広島県東広島市及び遺跡の位置

挿図目次

第１図　周辺遺跡分布図（1：25,000）…… 3
第２図　友松５号遺跡周辺地形図（1：2,500）…… 4
第３図　友松５号遺跡遺構配置図（1：300）…… 5
第４図　ＳＢ１実測図（1：30）…… 7
第５図　ＳＫ１・Ｐ11、ＳＫ２～４・６・７実測図（1：30）…… 9
第６図　ＳＫ５・８、ＳＤ１実測図（1：30、ＳＤ１平面図1：100）…… 10
第７図　ＳＤ２実測図（1：30）…… 11
第８図　遺物実測図（1：1、1：3、1：4）…… 13
第９図　遺物実測図（1：3、1：4）…… 14
第10図　遺物実測図（1：2、1：3、1：4）…… 15

表目次

表１　遺物観察表

表２　周辺遺跡一覧表

図版目次

図版扉　調査区北端部完掘写真（西から）

図版 1a. 北端部完掘（西から）
b. SD1 完掘（南から）
c. SB1 完掘（東から）

図版 2a. P8 断面（南から）
b. P9 断面（南から）
c. P10 断面（南から）
d. P11 断面（南から）
e. P12 断面（北から）
f. P16 遺物出土状況（東から）
g. P24 断面（南から）
h. P35 遺物出土状況（南から）

図版 3a. SK1 埋甕完掘状況（南から）
b. SK1 完掘（南から）
c. SK2 断面（南から）
d. SK3 断面（南から）
e. SK4 検出状況（南から）
f. SK4 完掘（北から）
g. SK6 完掘（南から）
h. SK7 完掘（北から）

図版 4a. SK5 埋桶内遺物等検出状況（東から）
b. SK5 埋桶完掘（東から）
c. SK5 完掘（南から）
d. SK8 石材検出状況（東から）
e. SK8 断面（南から）
f. SK8 完掘（西から）
g. P38 完掘（西から）
h. P39 完掘（西から）

図版 5a. 調査区東側北半完掘（南から）
b. 調査区東側南半完掘（南から）
c. 調査区南西張出部完掘（東から）

図版６　出土遺物

図版７　出土遺物

図版８　出土遺物

Ⅰ　はじめに

友松 5 号遺跡は、(仮) 寺家住宅団地造成工事に伴って広島県東広島市西条町寺家字友松で発掘調査が実施された。以下、調査に至る経緯を概述する。

平成 27 年 8 月 11 日付けで株式会社トータテ都市開発（以下「事業者」という。）から東広島市教育委員会教育長へ文化財の有無及び取扱いについて協議があった。東広島市教育委員会（以下「市教委」という。）は、分布調査（現地踏査）を実施した結果、平成 27 年 8 月 18 日付け、東広教文第 360 号で遺跡の有無及び範囲を確認するための試掘調査が必要な旨を回答した。平成 27 年 8 月 28 日付けで試掘調査の依頼があり、市教委が試掘調査を実施した。その結果、事業計画範囲の一部で溝状遺構や土坑ピットなどを検出したため、平成 27 年 9 月 28 日付け、東広教文第 396 号で友松 5 号遺跡を確認したことを回答した。

その後、市教委では、遺跡の現状保存や計画変更による遺跡の保存について事業者と協議を重ねた結果、宅地部分などは盛土保存することとなったが、団地内道路については、記録保存も止むを得ないとして基本合意した。

平成 27 年 10 月 6 日付けで、事業者から埋蔵文化財発掘の届出（土木工事の届出）が提出された。宅地部分は盛土保存ため慎重工事の対象となったが、団地内道路部分については現状保存が困難であると判断され、記録保存のための事前の発掘調査が必要な旨を平成 27 年 10 月 16 日付け、東広教文第 521 号で通知した。

平成 27 年 11 月 6 日付けで事業者から市教委あてに発掘調査の依頼が提出され、平成 27 年 11 月 19 日付け、東広教文第 593 号で承諾する旨回答した。平成 28 年 4 月 5 日付けで、発掘調査の業務委託契約と覚書が締結され、平成 28 年 4 月 18 日から 5 月 31 日まで発掘調査（現地調査）を実施した。報告書作成作業及び収蔵作業は平成 29 年 4 月 20 日付け契約及び平成 30 年 3 月 23 日付け変更契約を締結して実施した。

本書は、以上のような経緯を経て実施した発掘調査の成果をまとめたものである。当地の文化財資料として、また文化・歴史探究の一助として広く活用していただければ幸いである。

事業者である株式会社トータテ都市開発、株式会社丸一設計、株式会社ヤクシから発掘調査・整理作業・報告書作成作業の便宜を図っていただいた。また、発掘調査にあたって、土地の所有者や地域の方々の多大なご協力を得た。末筆ながら記して心から感謝の意を表したい。

Ⅱ 位置と環境

友松 5 号遺跡[1]は、東広島市西条町寺家に所在する。東広島市は、広島県南部のほぼ中央に位置する人口約 19 万人の都市である。市域の中央には標高約 200m の西条盆地が広がり、平坦部を黒瀬川が蛇行して南流し、その周囲を標高 400～600m 級の山々が取り囲んでいる。当遺跡は西条盆地北部にあたり、龍王山（575.1m）の南西部に広がる平坦部に立地している。

市内では、旧石器時代から近世・近代に至るまでの遺跡が数多く確認されており、ここでは当遺跡周辺の遺跡について概観していく。

旧石器時代の遺跡としては、五楽遺跡[2]が石器の散布地として知られている。また、集落跡としては広島大学構内の西ガガラ遺跡（西条鏡山）で、後期旧石器に比定される住居跡が検出されている。

縄文時代の遺跡としては、刈又池遺跡[3]で、石器や土器片が採集されている。また、三ッ城古墳[4]の墳丘盛土からは縄文晩期の土器や石器が出土している。

弥生時代の遺跡は多数確認されているが、弥生前期の遺跡は少なく、中期後半ごろから遺跡数が増加する傾向にある。

前期の遺跡としては、友松 3 号遺跡[5]において、溝状遺構から前期の土器が多数出土している。集落跡としては、団子遺跡[6]や諏訪神社南遺跡[7]が挙げられ、貞付谷遺跡[8]や小西遺跡[9]では木葉文を有する壺が出土している。

中期の集落跡は、諏訪神社周辺遺跡[10]、古市 1 号遺跡[11]、団子山 5 号遺跡[12]などがあり、助平 2 号遺跡[13]や金平山遺跡[14]では弥生中期から古墳時代初頭にかけて継続する集落が確認されている。

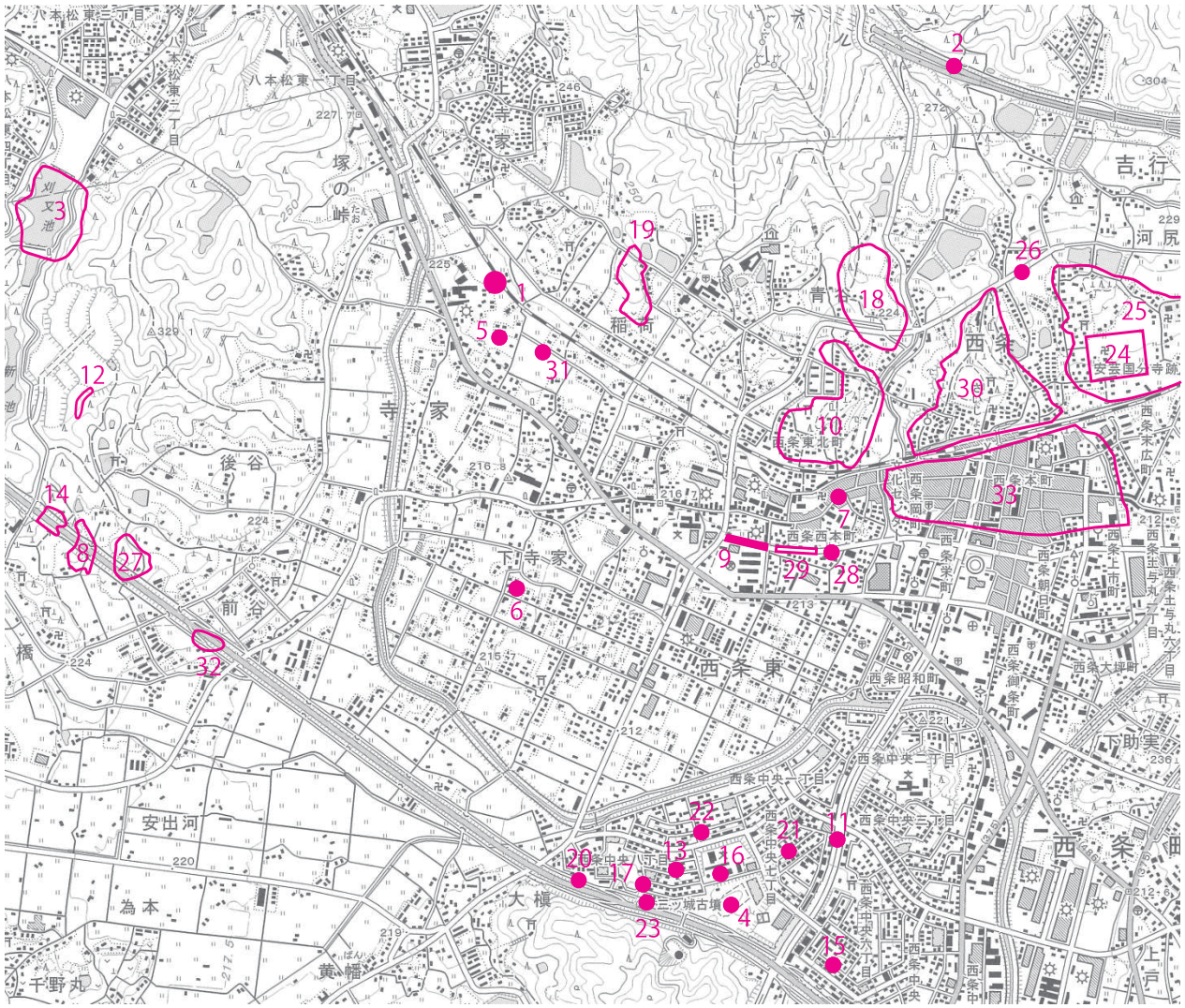
後期では、古市 4 号遺跡[15]、助平 1 号遺跡[16]、大槇 2 号遺跡[17]など集落跡が多数見つかっている。また、青谷 1 号遺跡[18]では環濠と考えられる溝から弥生後期から古墳初頭の遺物が多量に出土している。一方、再加工された細形銅剣が出土した横田 1 号遺跡[19]や青銅製の斧が出土した大槇 3 号遺跡[20]のような弥生時代後期の拠点的集落が対峙する丘陵上に存在する状況などが徐々に判明して来ている。

古墳時代の集落跡としては、古市 4 号遺跡、友松 3 号遺跡、大槇 2 号遺跡、貞付谷遺跡などが挙げられる。古市 2 号遺跡[21]の竪穴住居跡内から出土したミニチュア土器群や、浄福寺遺跡（西条町助実）から出土したミニチュア土器と滑石製品は注目される。古墳としては、5 世紀前半に築造された県下最大規模の前方後円墳である三ッ城第 1 号古墳が挙げられる。また、竪穴式石室を内部主体とする助平古墳[22]や横穴式石室を内部主体とする大槇第 2 号古墳[23]などがある。

古代には安芸国分寺[24]が建立され、周辺には安芸国分寺周辺遺跡[25]が存在する。また、鋳造工房があったとされる大地面遺跡[26]、円面硯や転用硯などが出土した青谷 1 号遺跡などが確認されており、当該地域が古代において重要な地域であったと考えられる。

中世になると、寺家城跡[27]、狐が城跡などの城館跡が多く確認されているほか、山崎１号遺跡[28]・山崎２号遺跡[29]などの集落跡も確認されている。また、御建遺跡[30]では中世山陽道の一部と推定される道路遺構が検出され、中世末～近世初頭頃の遺構と遺物が出土している。

近世の遺跡としては、掘立柱建物跡が検出された貞松遺跡[31]、前期の屋敷跡が検出された近信遺跡[32]がある。近世西国街道沿いに発展した宿場町である四日市遺跡[33]からは、建物跡や醸造遺構などが検出され、江戸時代から近代の陶磁器・土器などが多量に出土している。



1 友松５号遺跡　2 五楽遺跡　3 刈又池遺跡　4 三ッ城古墳　5 友松３号遺跡　6 団子遺跡　7 諏訪神社南遺跡
8 貞付谷遺跡　9 小西遺跡　10 諏訪神社周辺遺跡　11 古市１号遺跡　12 団子山５号遺跡　13 助平２号遺跡
14 金平山遺跡　15 古市４号遺跡　16 助平１号遺跡　17 大槇２号遺跡　18 青谷１号遺跡　19 横田１号遺跡
20 大槇３号遺跡　21 古市２号遺跡　22 助平古墳　23 大槇第２号古墳　24 安芸国分寺跡　25 安芸国分寺周辺遺跡
26 大地面遺跡　27 寺家城跡　28 山崎１号遺跡　29 山崎２号遺跡　30 御建遺跡　31 貞松遺跡　32 近信遺跡
33 四日市遺跡

第１図　周辺遺跡分布図（1：25,000）

Ⅲ　調査の概要

発掘調査は、試掘調査によって得られたデータ（遺構面までの深さ、堆積土・遺物包含層の状況、遺物の出土状況など）を基に、重機を使用して表土を掘削し、遺構検出面を人力で精査して行った。

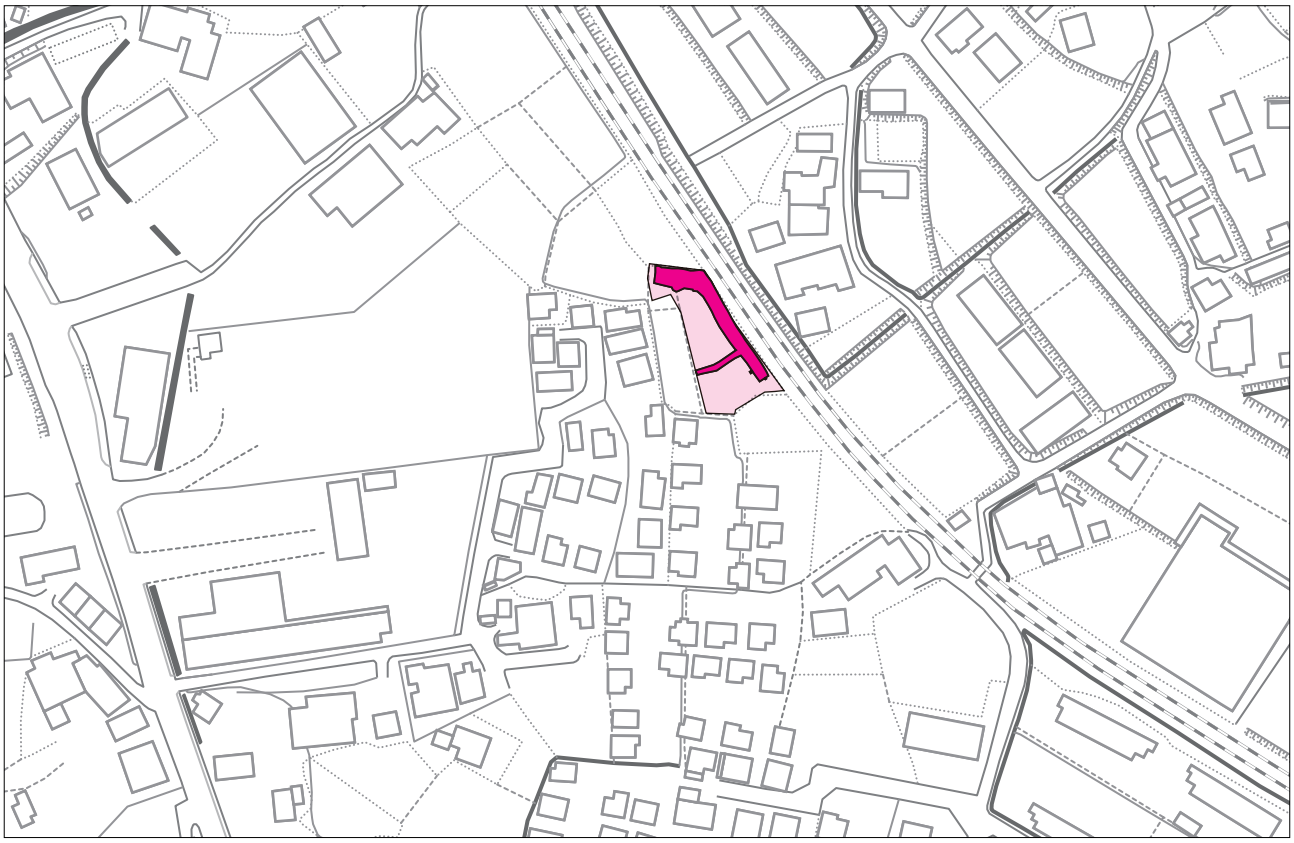
表土（耕作土）直下で遺構（地山）面が露出している。遺構面の標高は、224.1m～224.4mでほぼ平坦となっており、耕作地造成による削平のためと考えられる。

調査区は逆「L」字状に屈曲している。その屈曲部分に位置する溝状遺構（SD1）を境に、調査区北側部分には近世の遺構が集中し、調査区東側部分にはピットが点在する。また、南西方向に細長く飛び出した調査区ではピット1基のみ検出した。

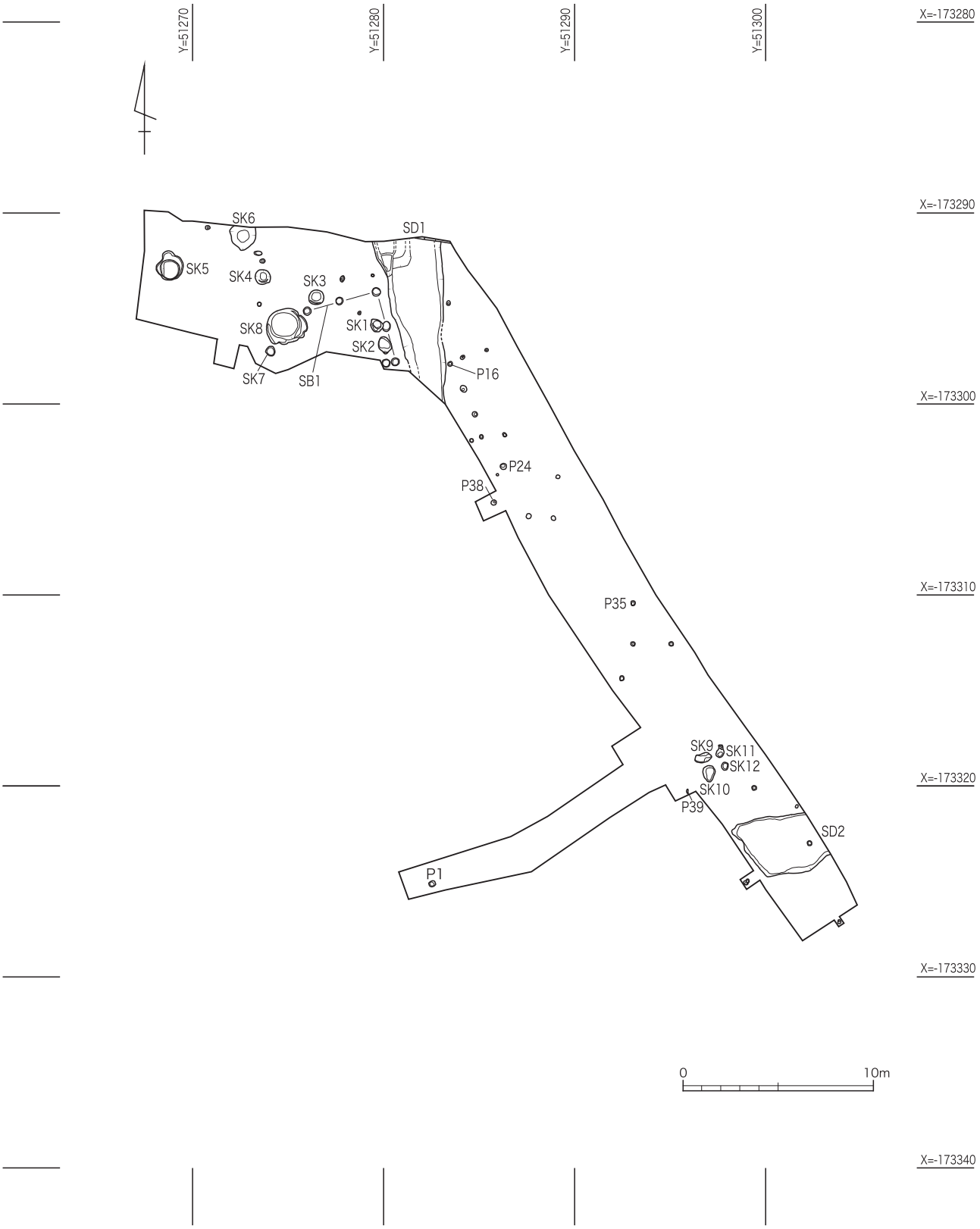
検出された遺構は、溝状遺構 2 条、土坑（風倒木土坑含む）12 基、性格不明遺構 1 基、ピット 39 基である。

遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、陶磁器、石製品などがコンテナ（340 ㎜×540 ㎜×100㎜）　10 箱分出土した。そのほとんどは図示し得ないほどの小破片である。

出土した遺物は、水洗と注記作業を実施し、接合と復元作業、実測・写真撮影などの記録を行った。整理作業及び報告書作成作業を進めながら、保管のための分類・収蔵作業も実施した。



第2図　周辺遺跡地形図（1：2,500）　※薄赤：友松 5号遺跡範囲、濃赤：調査区



第3図　友松5号遺跡遺構配置図(1:300)

Ⅳ　遺構と遺物

掘立柱建物跡

SB1（第４図、図版１）

建物跡の南側及び西側が調査区外に広がるため規模や主軸などは不明であるが、検出した現状は、柱間２間×２間（約4.2m×4.2m）の規模をもつ掘立柱建物跡である。柱穴の規模は、直径0.4m～0.5m、深さ0.25m～0.35mを測る。桁間は、北側が（西側からP10-P9-P8）1.8m-2.0m、東側が（北側からP8-P11-P12）1.8m-2.0mを測る。

柱穴の断面を観察すると、P8～P12には、柱痕と考えられる土層が確認できた。また、P11とP12は柱材の礎盤と考えられる板石がピットの底部に設置されているが、P9の石材については土層の中位に存在しており、柱を固定するためのものと考えられる。

P11が江戸時代後期の土師質土器を使用した埋甕土坑SK1に切られている。

土坑

SK1（第５図、図版３）

平面形が不整な埋甕土坑である。検出状況で、長軸0.75m、短軸0.6m、深さ0.45mを測る。断面観察（第５図SK1・P11）によると、掘立柱建物跡SB1-P11を切って構築されている。埋設されている甕（遺物番号１）は、土師質土器で、口縁部が攪乱されて底部は欠損した状態であった。

出土遺物（第８図１、図版６）

１は、在地系土師質土器の甕である。口縁部に粘土を貼り付け肥厚させ、端部は平坦に仕上げている。

SK2（第５図、図版５）

平面形が楕円形を呈する土坑である。検出状況で、長軸0.9m、短軸0.7m、深さ0.3mを測る。

出土遺物（第８図２、図版６）

２は、在地系土師質土器の破片である。外面に「○」形のスタンプで施文している。

SK3（第５図、図版３）

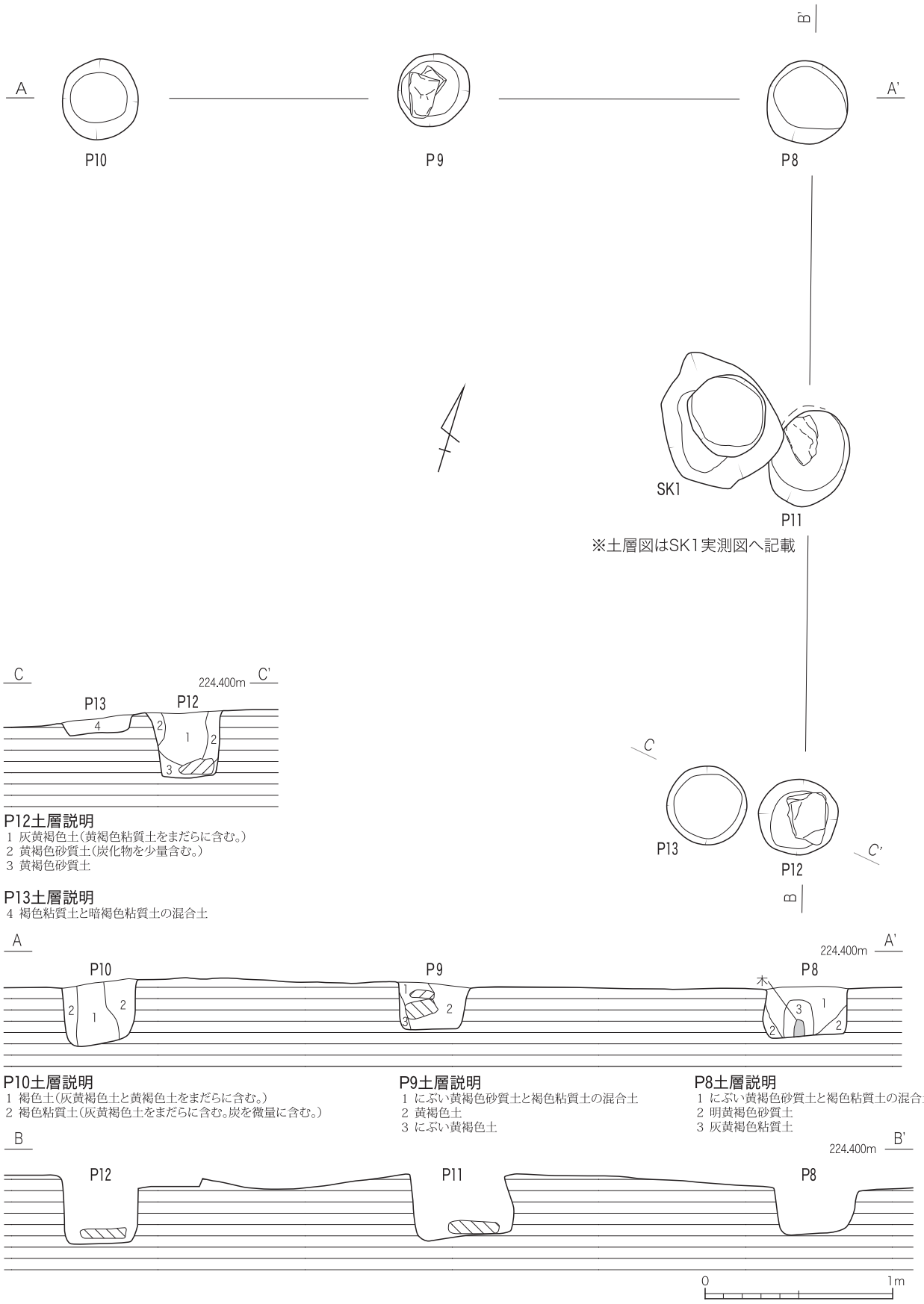
平面形が円形を呈する土坑である。検出状況で、直径0.8m、深さ0.4mを測る。土師質土器の破片が出土している。

SK4（第５図、図版３）

平面形が円形を呈する土坑である。検出状況で、直径0.8m、深さ0.5mを測る。断面形がすり鉢状を呈しており、埋甕が存在していた可能性もある。検出面に石材と遺物が露出しており、江戸時代後期を中心とした遺物が出土している。出土遺物は、SK8の遺物と接合する。

出土遺物（第８図３・４、図版６）

３は、円盤状土製品である。弥生土器の体部を打ち欠き円盤状に加工したものである。



第4図　SB1実測図(1:30)

4は、肥前系磁器端反り碗である。

SK5（第6図、図版4）

平面形が不整な円形を呈する埋桶土坑である。北側の半円状の突出部は別遺構の可能性があるが、検出時には平面での切り合いを確認することはできなかった。

規模は、検出状況で長軸約1.55m、短軸約1.45m、深さ約0.4mを測る。桶の直径は約1.1m、側板の高さ約0.35m、底板の直径は約0.95mを測る。底板は遺存状態がよく、4枚の板で構成され、扁平な竹製ダボ（いわゆるビスケット形）で接合されていた。

出土遺物（第8図5～9、図版6・8）

5は肥前系磁器くらわんか手の皿、6は在地系土師質土器の鍋、8は瓦を加工した円盤状土製品である。

7は、東広島市内八本松町で産出される高田流紋岩製の砥石、「吉川砥石」である。

9は、「U」字型を呈する青銅製のピンである。手芸で使われる「フォークピン」に類似するが、用途は不明である。

SK6（第5図、図版3）

平面形が不整な円形を呈する土坑である。検出状況で長軸約1.35m、深さ約0.25mを測る。拳大程度の円礫を多く含んでいた。

出土遺物（第9図10～12、図版7）

10は瀬戸美濃系陶器の筒型の鉢で、灰吹（灰落とし）と考えられる。口縁部が遺存していないため敲打痕は不明である。

11と12は、八本松町で産出される高田流紋岩製の砥石、「吉川砥石」である。

SK7（第5図、図版3）

平面形が円形を呈する土坑である。検出状況で直径約0.5m、深さ約0.1mを測る。

SK8（第6図、図版4）

平面形が不整な円形を呈する土坑である。検出状況で長軸約2.1m、短軸約1.9m、深さ約0.95mを測る。上層（土層断面第6図2層）には拳大～人頭大の石材が投げ込まれていた。湧水が著しく、素掘りの井戸の可能性がある。出土遺物は、SK4と接合する。

出土遺物 （第9図13～15・第10図16～19、図版7・8）

13～15は、SK4の出土遺物と接合したものである。

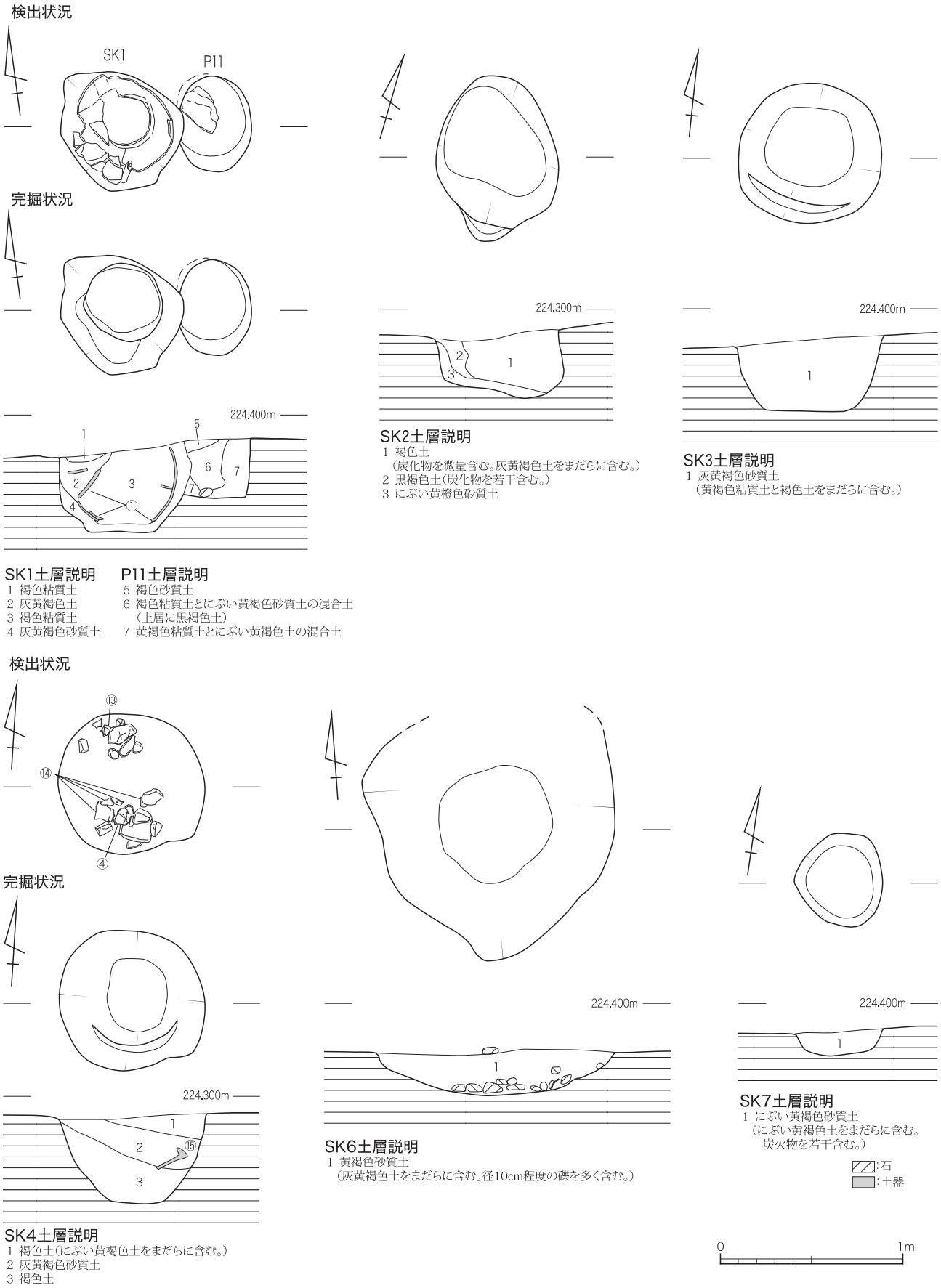
13は肥前系の広東碗、14は産地不明の陶器片口鉢、16は瀬戸美濃系の太白手広東碗、17は肥前系磁器の広東碗である。

15は大型の在地系土師質土器の甕で、口縁部に粘土を貼り付け肥厚させ、端部は平坦に仕上げている。

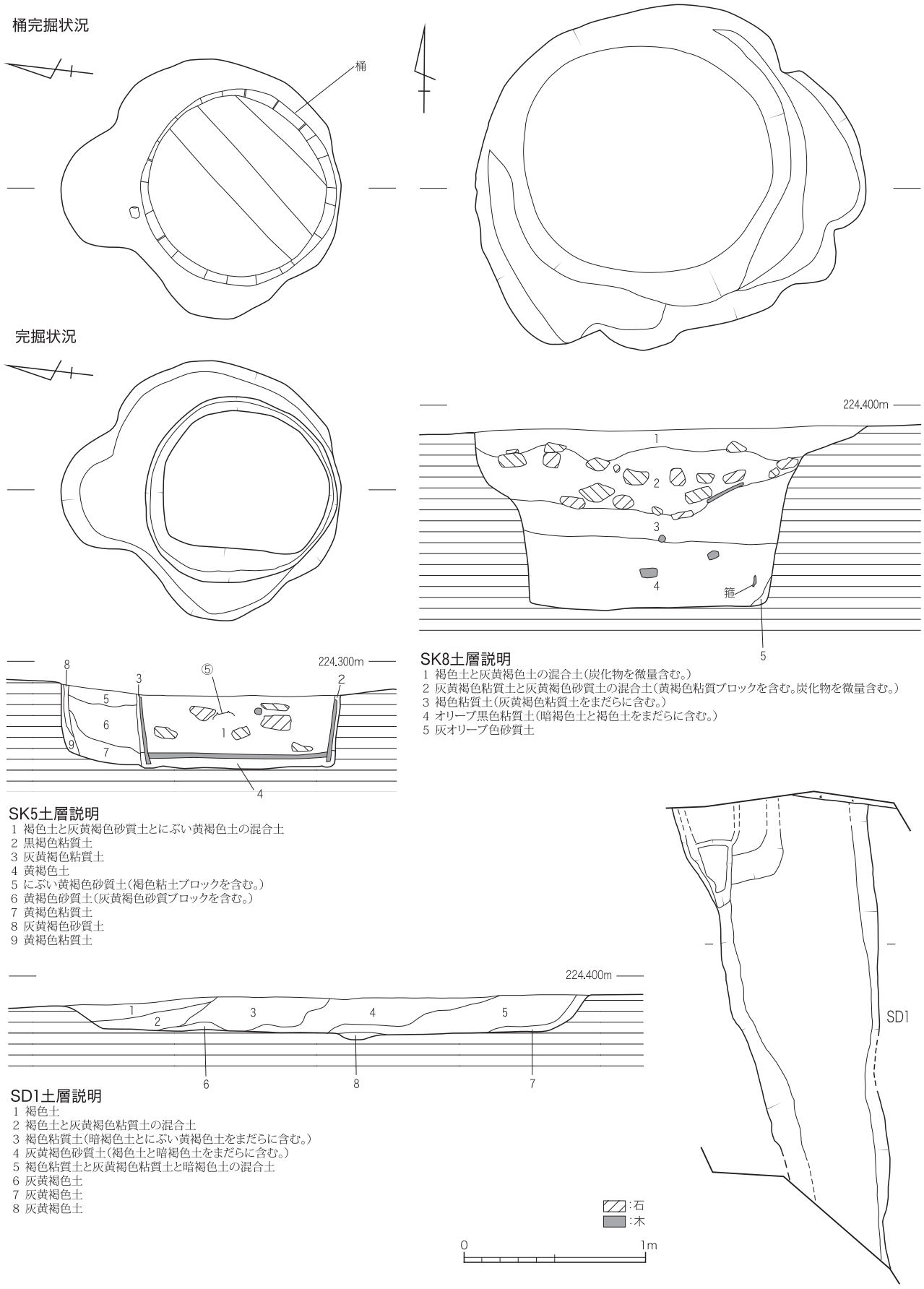
18と19は石臼で、それぞれ上臼と下臼である。

SK9～12（第3図、図版5）

調査区東側の南半部で検出した、長軸0.4～0.9m、短軸約0.3～0.6m、深さ0.1～0.2mを測る土坑群である。平面・断面・底部ともに不整形を呈しており、いわゆる風



第5図　SK1・P11、SK2～4・6・7実測図（1：30）

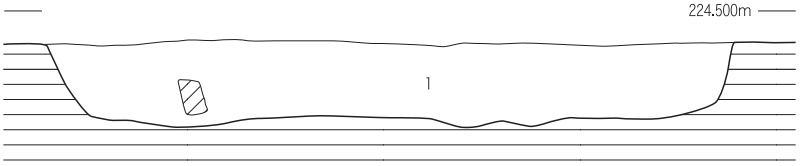


SK8土層説明
1 褐色土と灰黄褐色土の混合土(炭化物を微量含む。)
2 灰黄褐色粘質土と灰黄褐色砂質土の混合土(黄褐色粘質ブロックを含む。炭化物を微量含む。)
3 褐色粘質土(灰黄褐色粘質土をまだらに含む。)
4 オリーブ黒色粘質土(暗褐色土と褐色土をまだらに含む。)
5 灰オリーブ色砂質土

SK5土層説明
1 褐色土と灰黄褐色砂質土とにぶい黄褐色土の混合土
2 黒褐色粘質土
3 灰黄褐色粘質土
4 黄褐色土
5 にぶい黄褐色砂質土(褐色粘土ブロックを含む。)
6 黄褐色砂質土(灰黄褐色砂質ブロックを含む。)
7 黄褐色粘質土
8 灰黄褐色砂質土
9 黄褐色粘質土

SD1土層説明
1 褐色土
2 褐色土と灰黄褐色粘質土の混合土
3 褐色粘質土(暗褐色土とにぶい黄褐色土をまだらに含む。)
4 灰黄褐色砂質土(褐色土と暗褐色土をまだらに含む。)
5 褐色粘質土と灰黄褐色粘質土と暗褐色土の混合土
6 灰黄褐色土
7 灰黄褐色土
8 灰黄褐色土

第6図　SK5・8、SD1 実測図（1：30、SD1 平面図のみ 1：100）



SD2土層説明

1 褐色粘質土（暗褐色土ブロックを含む。炭化物を若干含む。）

第7図　SD2 実測図（1：30）

倒木や植物痕と考えられる。遺物も出土していない。

溝状遺構

SD1（第 6 図、図版 1）

調査区が「L」字に屈曲する部分で検出され、調査区外へと延びる南北方向の溝状遺構である。幅約 2m～3.5m、深さ約 0.2mを測る。北西部分には、やや深い落ち込みが存在するが、SD1 完掘中に確認されたため、溝に先行する土坑の可能性があるが、詳細は不明である。断面観察では短期間に埋め戻された可能性が高いと考えられる。

出土遺物は、弥生土器や輸入陶磁器も数点確認しているが、多くは江戸時代後期の土師質土器である。

出土遺物（第 10 図 20～22、図版 8）

20 は弥生土器の底部である。

21 は水晶である。用途は不明であるが、先端部に僅かに敲打痕が認められる。

22 は輸入陶磁器の破片で、内面に櫛描文が施されており同安窯系青磁と考えられる。

SD2（第 7 図、図版 5）

調査区の南端で検出され、調査区外へと延びる東西方向の溝状遺構である。最大幅約 3m、深さ 0.3mを測る。一部に焼石を含んだ石材の集中部があるが、平面・断面観察では掘り方などは確認されなかったため、溝の埋戻し時に廃棄されたものと考えられる。

出土遺物（第 10 図 23、図版 8）

23 は砥石である。二次的被熱を受けている。

ピット（第 3 図、図版 2・4・5）

P16 は、溝状遺構 SD1 の東側で検出した。直径約 0.25m、深さは 0.16mを測る。図示し得なかったが、弥生土器が出土している。

P24 は、調査区東側の北半部で検出した。直径約 0.32m、深さは 0.2mを測る。埋土に炭化物を多く含み、断面観察では直径約 0.1mの柱痕が確認された。

P35 は、調査区東側のほぼ中央部で検出した。直径約 0.2m、深さは 0.15mを測る。土師器の甕（遺物番号 24）が出土した。

P38・P39 は、汚水枡の宅内引き込み工事の立会で検出したため、不時緊急調査で対応したものである。P38 は、直径約 0.2m、深さは 0.15mを測る。P39 は、長軸 0.2m、深さ 0.1mの不整形を呈する。P39 から石鏃（遺物番号 25）が 1 点出土した。

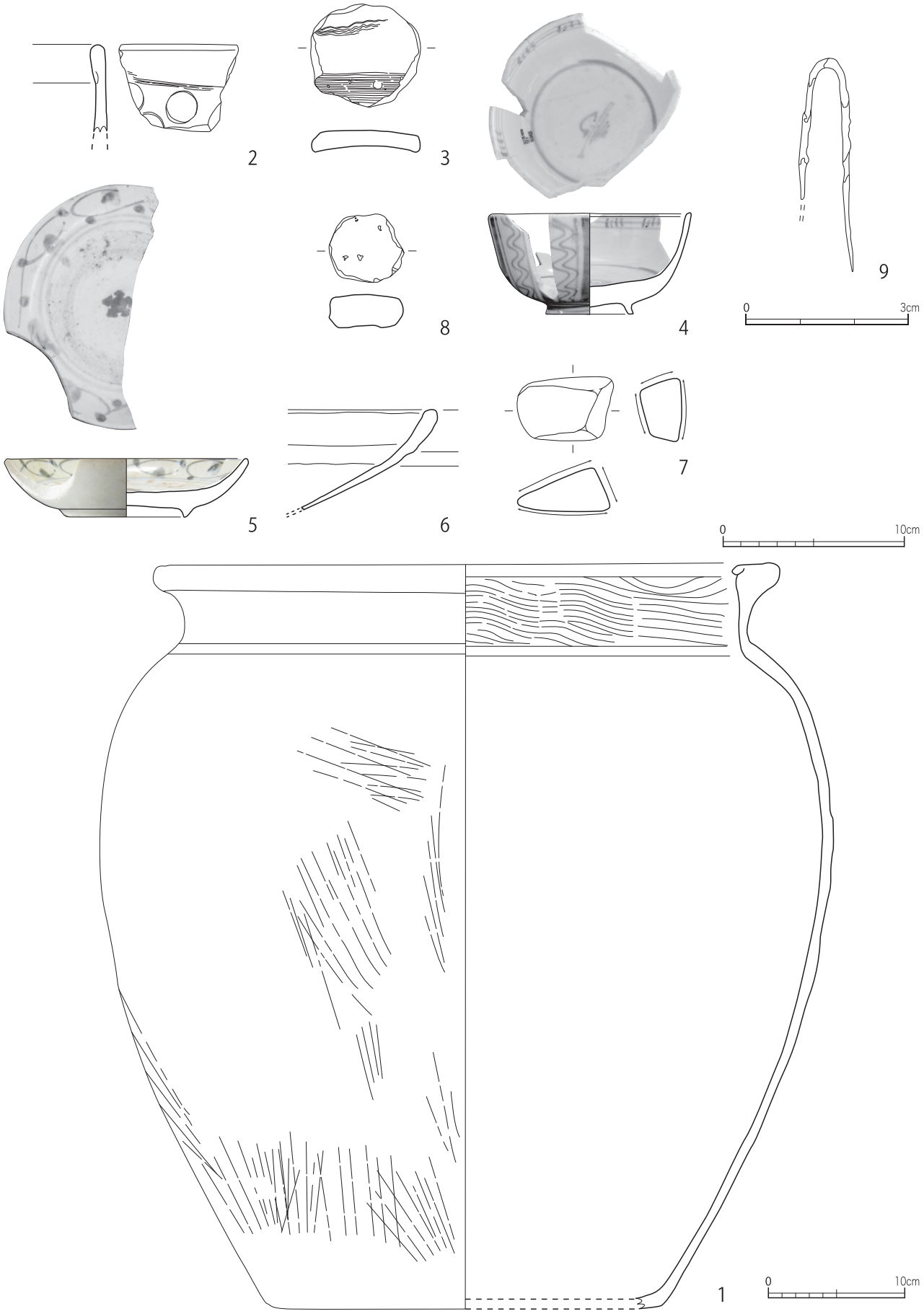
出土遺物（第 10 図 24・25、図版 8）

24 は、土師器甕の口縁部破片である。

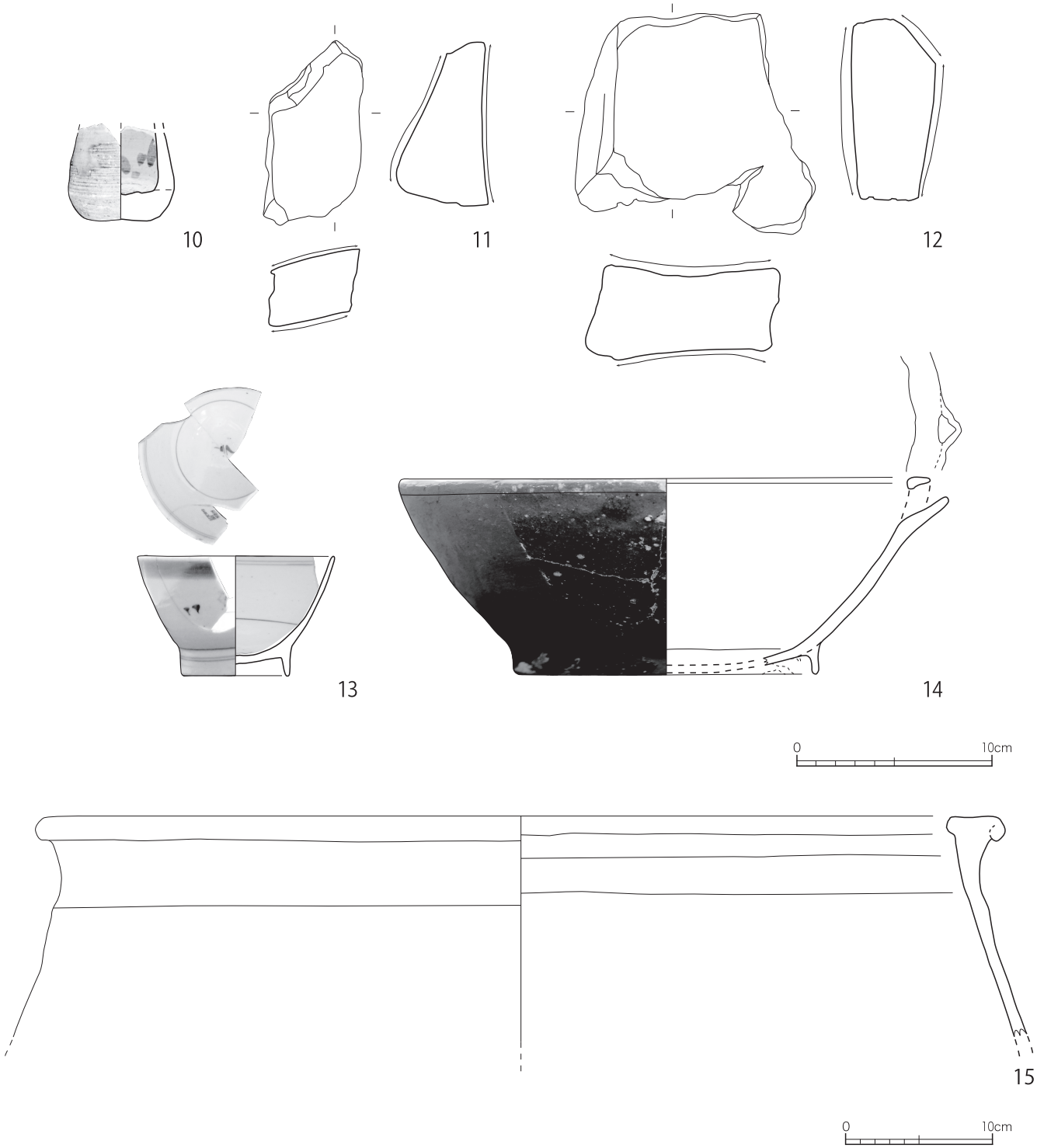
25 は、石鏃である。

遺構外の出土遺物（第 10 図 26、図版 8）

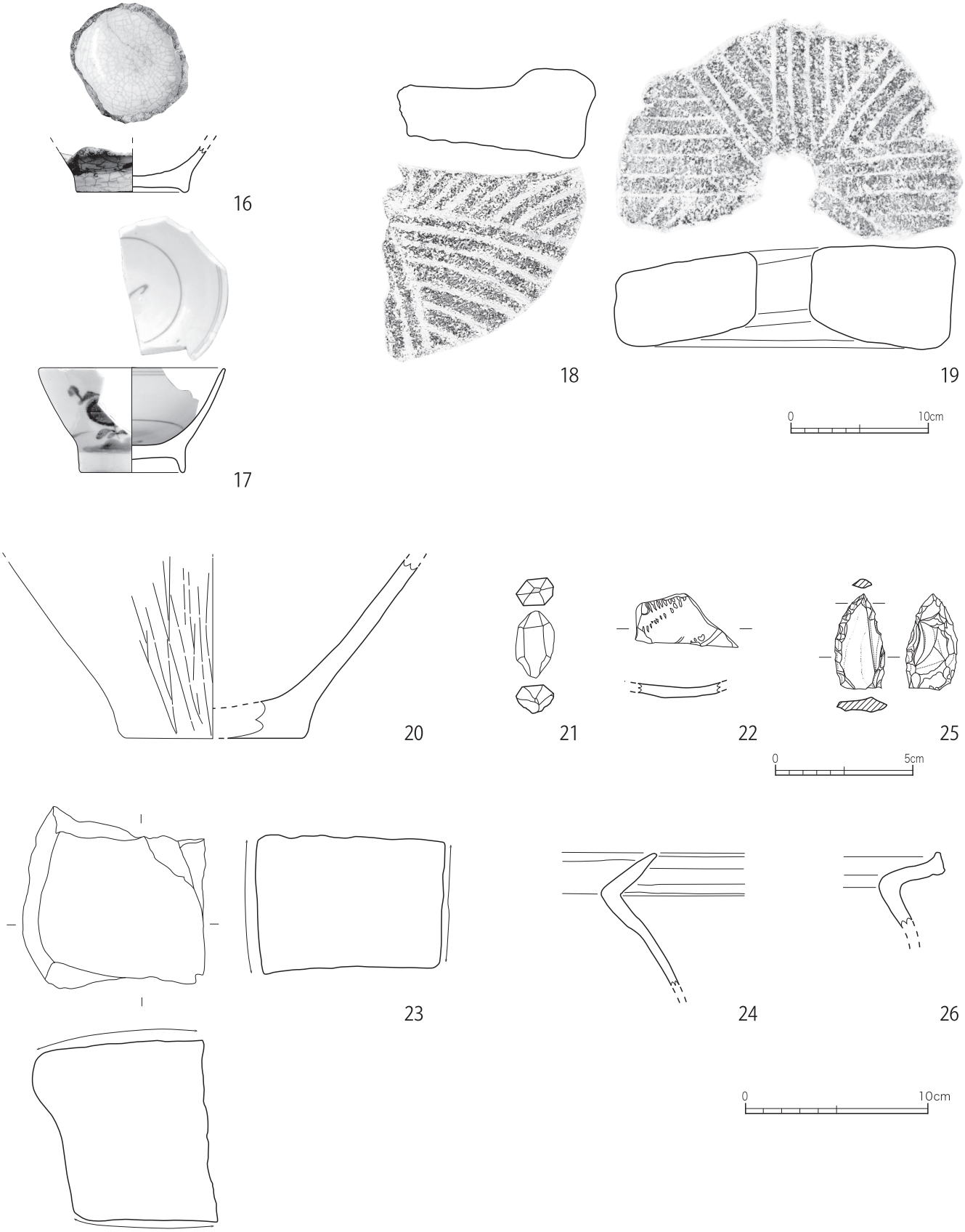
26 は、表採資料であるが、弥生土器の口縁部の破片である。



第8図　出土遺物実測図１（1−1：4、2〜8−1：3、9−1：1）



第9図　出土遺物実測図２（10～14−1：3、15−1：4）



第10図　出土遺物実測図３

（16・17・20・23・24・26−1：3、18・19−1：4、21・22・25−1：2）

表１　友松５号遺跡　遺物観察表

遺物番号	出土地点	種別	器種	法量(cm) (　)は復元値	胎土	焼成	色調	調整	備考
1	SK1	土師質土器	大甕	口径：46.0 器高：54.4 底径：28.8	密	良	外面：にぶい黄橙 内面：浅黄橙 胎土色：にぶい黄橙	外面：ナデ後刷毛目（不定方向） 内面：ナデ後刷毛目	在地系-原村焼 5～10cm輪積み成形
2	SK2	土師質土器	土器片	口径：— 器高：— 底径：—	密	良	外面：灰黄褐 内面：にぶい黄橙	外面：ナデ、型押し当て 内面：ナデ	在地系 外面スス付着 直径1.7cm程度の円形型押し当て
3	SK4	土製品	円盤状製品	直径：6.0 厚さ：0.9	密	良	外面：浅黄橙 内面：黄灰	外面：波状文、条線文 内面：-	弥生土器の体部を転用か？
4	SK4	磁器	碗 （端反り）	口径：(11.2) 器高：5.6 底径：4.8	密	良	外面：明緑灰 内面：灰白 胎土：灰白	外面：染付 内面：染付	肥前系 外面：よろけ縞文様 見込：寿字または鷺
5	SK5	磁器	皿 （くらわんか手）	口径：(13.2) 器高：3.2 底径：6.8	密	良	外面：灰白 内面：灰白 胎土：灰白	外面：染付 内面：染付	肥前系　19世紀後半 蛇の目釉剥ぎ 内面：唐草文様　見込：五弁花
6	SK5	土師質土器	鍋 （焙烙）	口径：— 器高：— 底径：—	密	良	外面：褐灰 内面：浅黄橙	外面：ナデ後刷毛目 内面：ナデ後刷毛目、指押さえ	外面スス付着
7	SK5	石製品	砥石	長さ：5.0 幅　：3.5 厚さ：2.4	-	-	-	-	高田流紋岩-吉川砥石 重さ：51.1ｇ 使用面：3面
8	SK5	瓦製品	円盤状製品	直径：4.2 厚さ：1.7	密	良	外面：黒 内面：暗灰	-	砂粒多く含む 黒(燻)瓦を転用か？
9	SK5	鉄製品	U字状製品	長さ：4.9 幅　：0.9 厚さ：0.1～0.2	-	-	-	-	重さ：0.66ｇ 全体的に錆付着 桶内から検出
10	SK6	陶器	鉢 （灰吹・灰落とし）	口径：— 器高：残存4.5 底径：（3.6）	粗	良	外面：明黄褐 内面：灰白 胎土：灰白	外面：ナデ後刷毛目 内面：ナデ	瀬戸美濃系 外面：上部灰釉 底部：回転糸切り技法
11	SK6	石製品	砥石	長さ：10.1 幅　：6.2 厚さ：4.5	-	-	-	-	高田流紋岩-吉川砥石 重さ：314.13ｇ 使用面：2面
12	SK6	石製品	砥石	長さ：11.5 幅　：11.5 厚さ：5.0	-	-	-	-	高田流紋岩-吉川砥石 重さ：700ｇ 使用面：2面
13	SK8 (SK4)	磁器	碗 （広東碗）	口径：9.8 器高：6.1 底径：5.4	密	良	外面：灰白 内面：灰白 胎土色：灰白	外面：染付 内面：染付	肥前系　　※SK4とSK8で接合 見込：寿字か？
14	SK8 (SK4)	陶器	片口鉢	口径：27.0 器高：10.0 底径：15.0	密	良	外面：暗褐 内面：暗褐 胎土色：灰白	外面：ナデ後施釉（高台部施釉なし）、貼付高台 内面：ナデ後施釉	産地不明　　※SK4とSK8で接合 高台部・片口部貼付
15	SK8 (SK4)	陶器	大甕	口径：(58.0) 器高：— 底径：—	粗	やや不良	外面：橙 内面：灰白 胎土色：にぶい黄橙	外面：ナデ 内面：ナデ、一部刷毛目	在地系-原村焼　※SK4とSK8で接合 口縁外側スス付着
16	SK8	陶器	碗 （太白手・広東碗）	口径：— 器高：残存2.5 底径：6.1	密	良	外面：灰白 内面：灰白 胎土：にぶい黄橙	外面：染付 内面：染付	瀬戸美濃系 炭化物付着 見込：五弁花か？ 外面：捩花文様か？
17	SK8	磁器	碗 （広東碗）	口径：(10.2) 器高：5.2 底径：5.6	密	良	外面：明オリーブ灰 内面：明緑灰 胎土：灰白	外面：染付 内面：染付	肥前系 外面：草花文様か？ 内面：圏線、見込み不明
18	SK8	石製品	石臼 （上臼）	直径：(33.0) 厚さ：6.4	-	-	-	-	花崗岩 7条
19	SK8	石製品	石臼 （下臼）	直径：24.1 厚さ：7.4	-	-	-	-	花崗岩 6条
20	SD1	土器	甕または壺 （底部）	口径：— 器高：残存5.8 底径：（9.6）	密	良	外面：灰黄褐 内面：灰黄褐	外面：ナデ後ヘラみがき 内面：ナデ	弥生土器
21	SD1	石製品	水晶	長さ：2.4 幅　：1.3 厚さ：1.1	-	-	-	-	重さ：4.42ｇ 敲打痕あり
22	SD1	青磁	磁器片	口径：— 器高：— 底径：—	密	良	外面：灰白 内面：明オリーブ灰 胎土：灰白	-	同安窯系 内面に文様あり
23	SD2	石製品	砥石	長さ：9.9 幅　：9.6 厚さ：10.1	-	-	-	-	重さ：1450ｇ 凝灰岩　二次被熱 使用面：2面
24	P35	土器	甕	口径：— 器高：— 底径：—	密	良	外面：にぶい橙 内面：にぶい黄橙	外面：ナデ 内面：ナデ、指押さえ	口縁部内側スス付着
25	P39	石製品	石鏃	長さ：3.4 幅　：1.8 厚さ：0.6	-	-	-	-	重さ：3.72ｇ
26	表採	土器	土器片	口径：— 器高：— 底径：—	粗	良	外面：明黄褐 内面：明黄褐	外面：ナデ 内面：ナデ	弥生土器

V　まとめ

今回の発掘調査は、団地造成に伴って実施されたものである。宅地部分は盛土によって保存することができたが、団地内道路部分について調査対象とすることとなった。そのため調査区が限定的になり、遺跡の全容はつかめなかったが、調査成果を概観することでまとめに代えたい。

周辺には、本遺跡を含め友松 1 号～ 5 号までが集中して確認され、右表のように、弥生時代前期から近世までの遺構と遺物が検出されている。

遺跡名	主な遺構	主な遺物	時代
友松 1 号遺跡	竪穴住居跡 溝	弥生土器	弥生時代中期
友松 2 号遺跡	溝（環濠か？） 土坑	弥生土器 陶磁器	弥生時代中期後半 中世
友松 3 号遺跡	竪穴住居跡 溝	土師器 弥生土器	古墳時代前期 弥生時代前期
友松 4 号遺跡	ピット		中世か？
友松 5 号遺跡	掘立柱建物跡 溝・土坑 ピット	不明 陶磁器 弥生土器	中世か？ 近世 弥生時代か？

表 2　周辺遺跡一覧表

これまであまり確認されてこなかった弥生時代前期及び古墳時代初頭の集落跡が、丘陵部ではなく平坦地で確認された意義は大きい。

一方、友松 5 号遺跡からは、弥生土器・土師器が出土したピット、時期は不明であるが掘立柱建物跡、近世の陶磁器が出土した土坑などが確認されている。

遺構について

調査区は逆「L」字状になっており、屈曲部に存在する溝状遺構を境に北側と東側の調査区で検出された遺構の内容が大きく異なる。

北側の調査区では、主に近世の土坑が検出され、時期は不明であるが掘立柱建物跡 1 棟も確認されている。一方、東側の調査区は、主にピットが確認されているが、削平が著しくいずれも残りが悪い。

遺物について

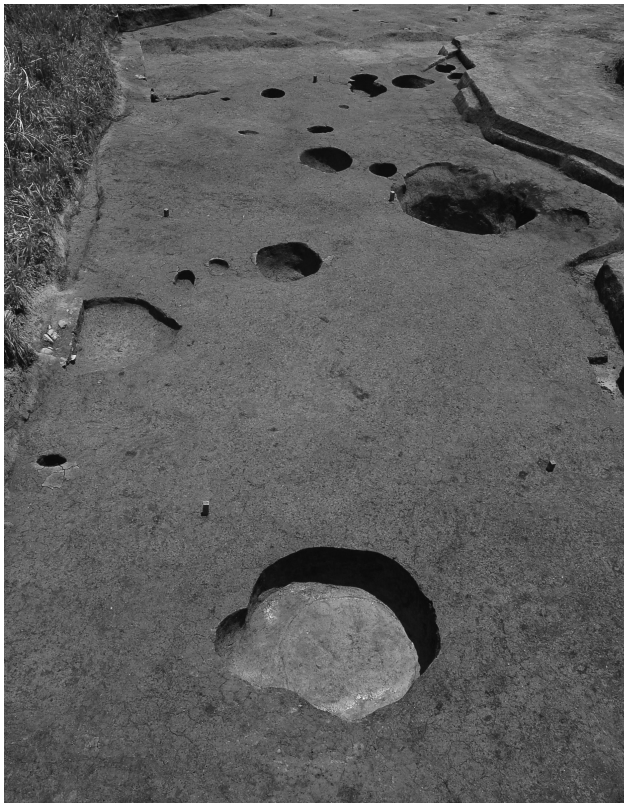
遺物のほとんどは、調査区北端部から出土したもので、18 世紀後半～19 世紀前半のものと考えられる。また、SK4 と SK8 という規模も性格も異なる遺構間で多くの遺物が接合したことは注目される。2m も離れていない距離の土坑に、分けて廃棄した理由は不明であり、「ゴミの再処理？」問題などを含め今後の課題である。

おわりに

遺構の配置状況や遺物の出土状況から、友松 5 号遺跡を概観すると、本遺跡が立地する地区には弥生時代～古墳時代に集落が存在していたものの、後世（中世～近世中期か？）に耕作地確保のための造成（切土）によって平坦地に削られ、近世後期に井戸や埋桶・埋甕土坑などを伴う集落地として再利用されて今日に至るものと考えられる。

図　版

調査区北端部完掘写真（西から）

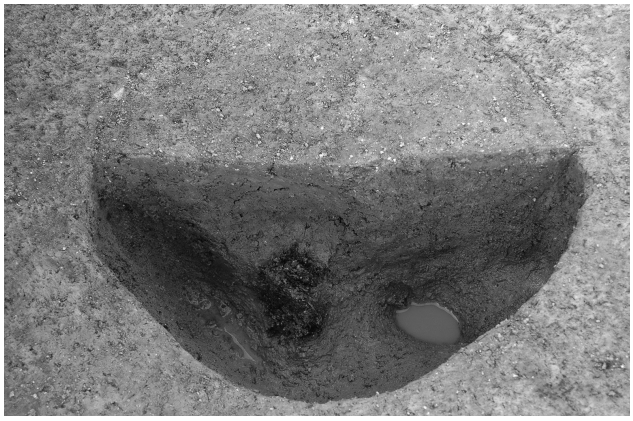


a. 北端部完掘（西から）

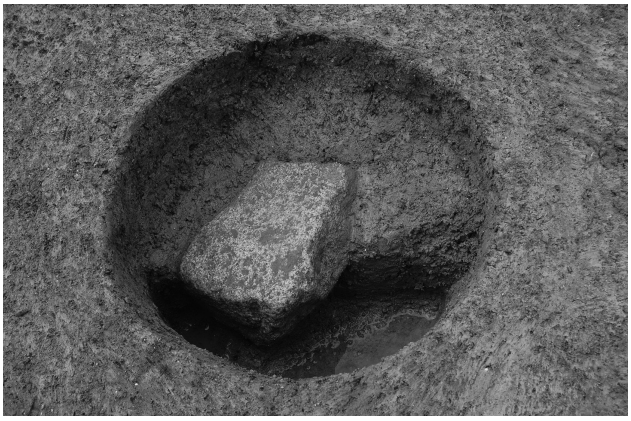
b .SDI 完掘（南から）

c .SBI 完掘（東から）

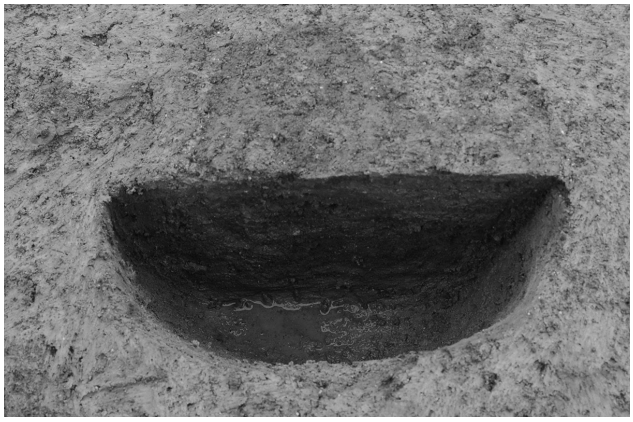
図版 2



a. P8 断面（南から）



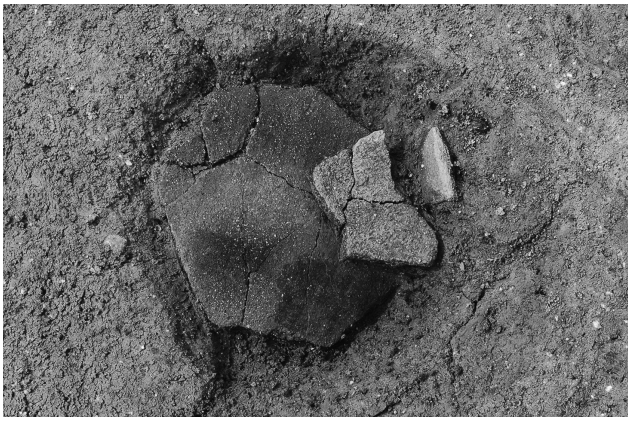
b. P9 石材検出状況（南から）



c. P10 断面（南から）

d. P11 断面（南から）

e. P12 断面（北から）



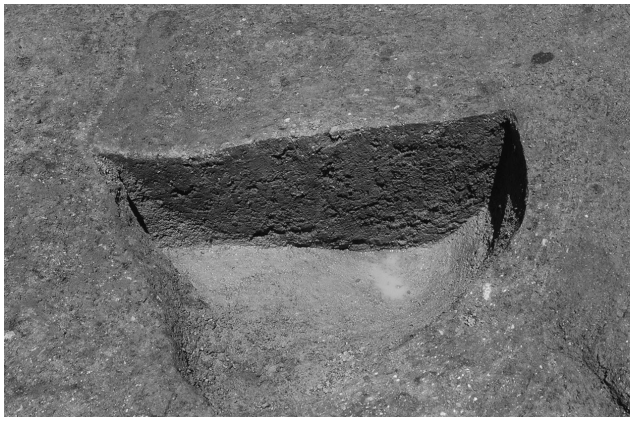
f. P16 遺物出土状況（東から）

g. P24 断面（南から）

h. P35 遺物出土状況（南から）

a. SK1 埋甕完掘状況（南から）

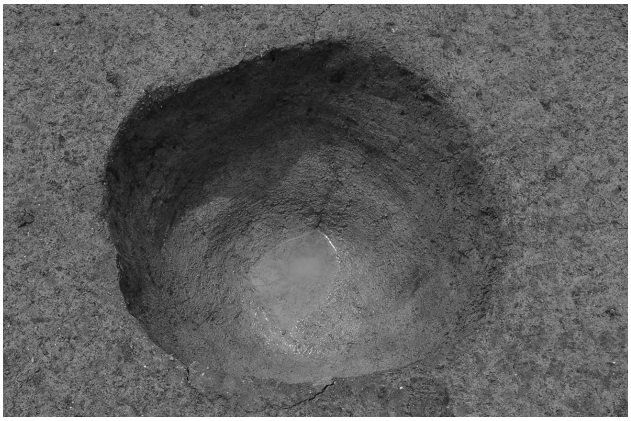
b. SK1 完掘（南から）



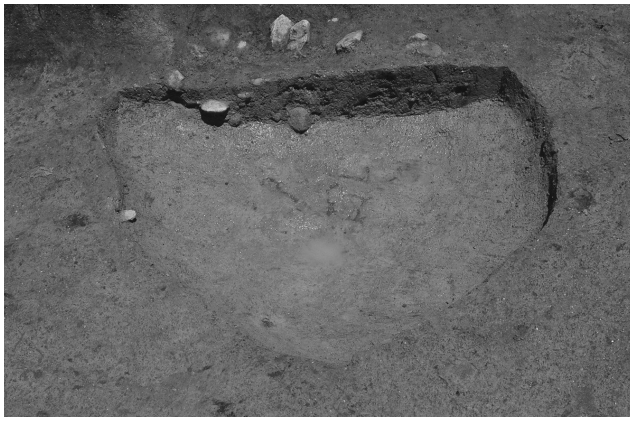
c. SK2 断面（南から）

d. SK3 断面（南から）

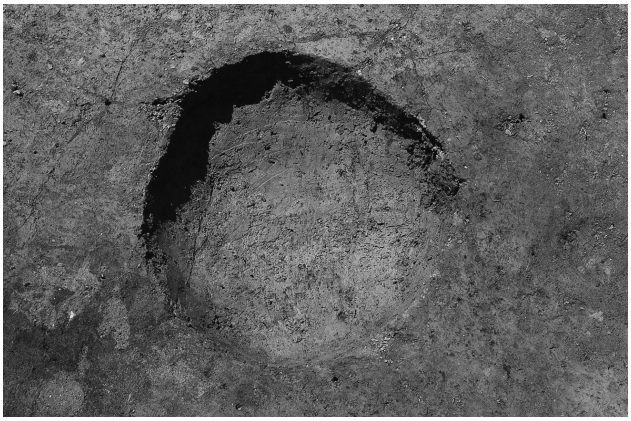
e. SK4 検出状況（南から）



f. SK4 完掘（北から）



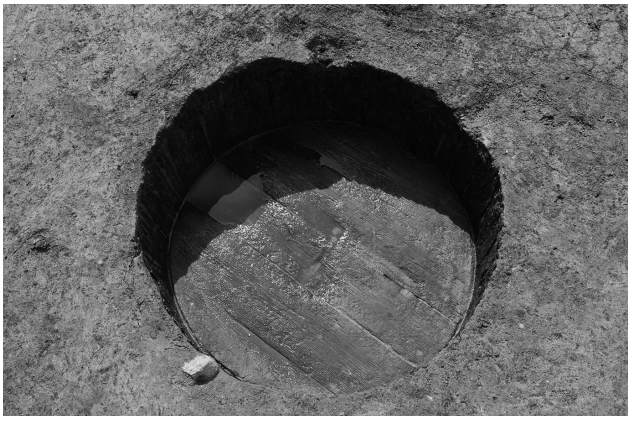
g. SK6 完掘（南から）



h. SK7 完掘（北から）

図版 4

a. SK5 埋桶内遺物等検出（東から）



b. SK5 埋桶完掘出（東から）

c. SK5 完掘（南から）

d. SK8 石材検出状況（東から）

e. SK8 断面（南から）

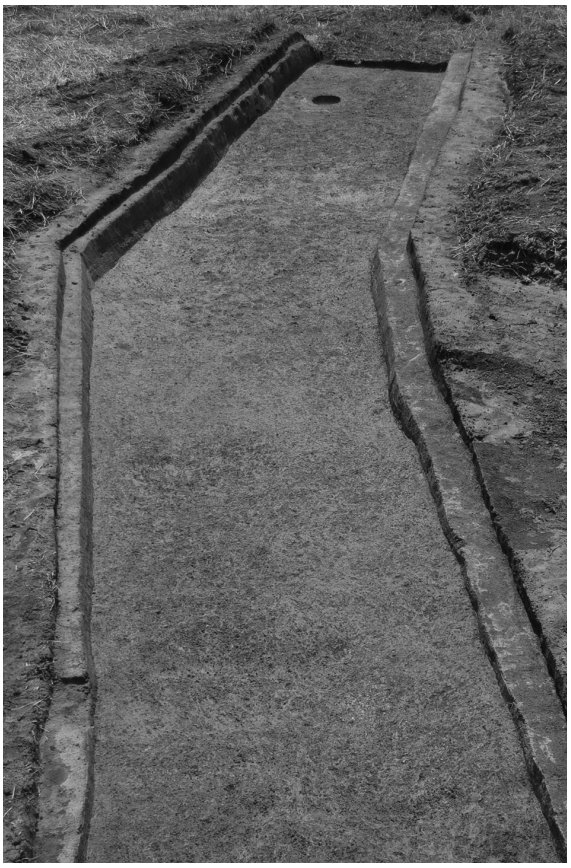
f. SK8 完掘（西から）

g. P38 完掘（西から）

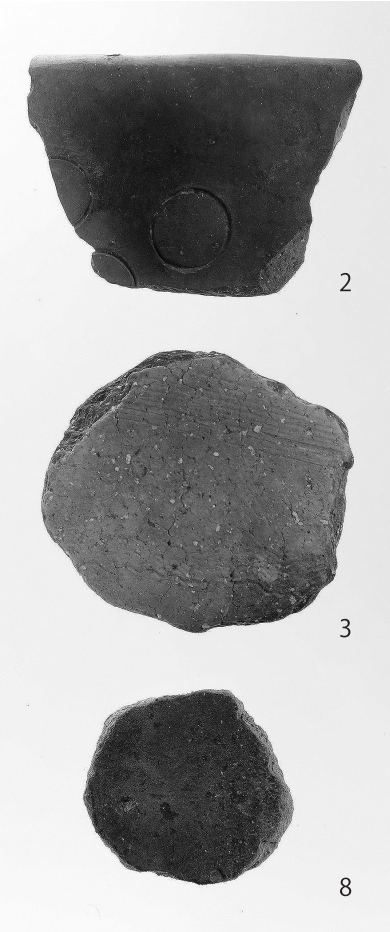
h. P39 遺物出土状況（西から）

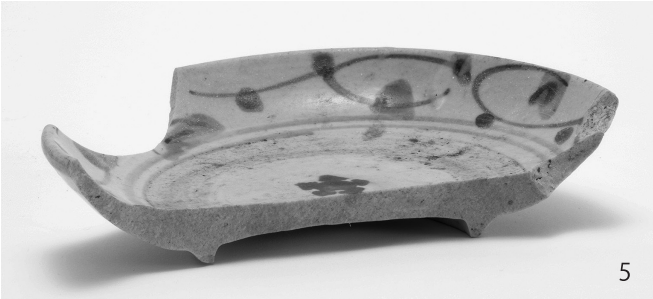
a．調査区東側北半完掘（南から）

a．調査区東側北半完掘（南から）

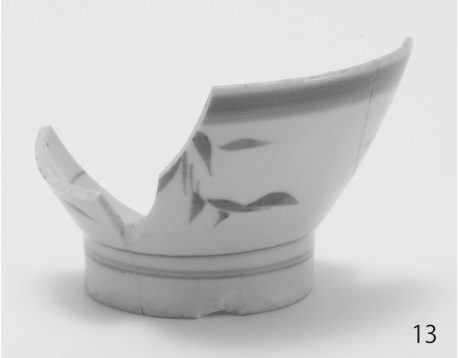


c．調査区南西張出部完掘（東から）

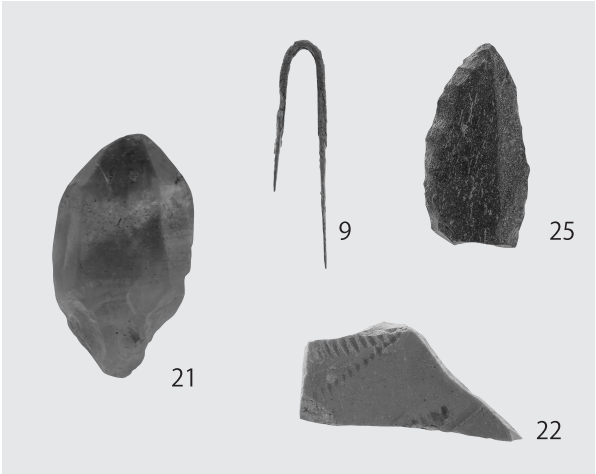


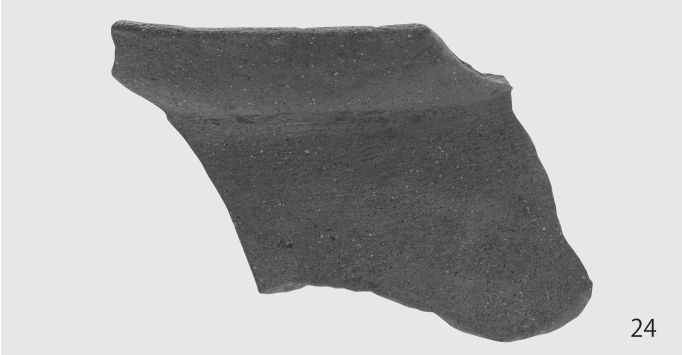


出土遺物 1



出土遺物 2





出土遺物 3

報　告　書　抄　録

ふりがな	ともまつごごういせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	友松５号遺跡発掘調査報告書
副書名	(仮)寺家住宅団地造成工事に係る発掘調査
巻次	
シリーズ名	東広島市教育委員会文化財調査報告書
シリーズ番号	第 58 集
編著者名	石垣敏之、盛菜つみ
編集機関	東広島市教育委員会
所在地	〒739-2201　広島県東広島市河内町中河内 651 番地 7　　TEL 082-420-7890
発行機関	東広島市教育委員会
所在地	〒739-8601　広島県東広島市西条栄町 8 番 29 号
発行年月日	西暦 2018 年 8 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ともまつごごういせき 友松５号遺跡	ひがしひろしましさいじょうちょうじけ 東広島市西条町寺家	34212	1010	34° 26′ 11″	132° 43′ 29″	20160418 ～ 20160531	450 ㎡	(仮称)寺家住宅団地造成工事に係る発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
友松５号遺跡	集落跡	弥生 中・近世	掘立柱建物跡 1 棟 溝状遺構 2 条 土坑 12 基 ピット 39 基	弥生土器 土師器 須恵器 土師質土器 陶磁器 石製品	近世後期の遺構と遺物を検出

要約
時期不明ではあるが掘立柱建物跡 1 棟を検出し、近世後期の遺構と遺物を検出した。また、ピット（柱穴）の一部からは、弥生時代～古墳時代の土器が出土した。

東広島市教育委員会文化財調査報告書　第58集

友松5号遺跡発掘調査報告書

発　行　日　2018（平成30）年8月31日

編集・発行　東広島市教育委員会

〒739-8601 広島県東広島市西条栄町8番29号

印　　刷　有限会社アラ・アド

〒739-0022 東広島市西条町上三永1675番地